

京都会議 12/4 ('67) 1101 サイドホテル (京都)

事務局: 豊田, 小川, 山田, 小沼,  
小此木, 沢田, 安野

(17:00 開始)

I. スケジュール (4日, 5日)

4日 報告

- 1° 小沼: Venezia
- 2° 豊田: Romeby
- 3° 小川
- 4° 山田: Comment

5日 討論

- 1° 日本での Pug. E 用件
- 2° Pug. の conti. committee
- 3° 科・京 (1968) の開催
- 4° 山田 提案
- 5° 科・京 の組織

庶務: 小沼

記録: 小此木, 沢田, 安野

4日

p.m. 5:00-6:00 7° ロケラ  
 p.m. 6:00-7:00 Dinner  
 p.m. 7:00- 1° (20'+20')  
 2°, 4° (30'+20')  
 3° (20'+20')  
 -10:00 Discussion 50'

5日

a.m. 10:00  
 | 1°, 2°  
 a.m. 12:00  
 | (Lunch)  
 p.m. 1:00  
 | 3°  
 p.m. 3:00  
 | (Tea)  
 p.m. 4:00  
 | 4°  
 p.m. 5:00  
 | 5°  
 p.m. 7:00

2°) 一般  
核拡散 ABM: (Lopes の paper); 4°) Vietnam 声明文  
Garcia

(p.m. 7:00 開始)

## II. 勉強会 (Report)

### 1° Venezia 報告 (小沢) — 資料

△" = ス会" の特徴

- △" + △" を始めて serious に採り上げた。

— 主テーマが 科学の口際協力と軍縮

— 北爆の最初の '84, Aug. 12" が △" では  
行もなかった。

- 急速に △" + △" での エスカレーション が進行した時期  
であった。

△" + △" に関して 殆ど毎日 時日を費して 激論があった。

- 一般的声明は 極めて 困難な状況にあって、討論された  
という事実だけが 出た。

- Gas に関して — かなりの 程まで 作られた。トリエステで  
の BCW, W-G の 討論が あり 幸い した。

### 議論

- 日本の 経緯委の 電報は 極めて 有効であった。USSR  
もこの日本の行動を full に 利用した。

- 大口批判の 最初の ケース であるが、しかし 作らぬ" 作れ  
る ことを 感じた。

- 日本の 科学者は △" + △" 肉題 については 決して 分裂して  
は なかった。

- 非同盟諸国も含め フランス 仲" リスまで 米批難が  
起った。

## 2° Ronneby 報告 (豊田) — 資料

ABM 内題をゼロにするため W.G. 7 が追加された。

### 会議の特徴

- A. LA の出席者が多く active であった
- 核防条約をめぐって
  - 核防条約を Pug. で交渉させた狙いがあった、  
そのため テクニカルな議論で進められようとした。
  - 核拡散についての山田提案があった
- 山田提案について
  - 米口にとってかなり深刻であつたらしい
  - USSR も最初は半信半疑であつたらしいが、あとで賛成した。
- ABM 内題をめぐって
  - ソ連にやめさせること、アメリカがやめることは  
マクマラ 戦畧の破綻を意味する。
- アメリカ人の中に日本の主張と同じくする人が現われたことは注目に値する。

W. Davidson 提案：5つの核保有国は 1st Use ではない

これについて、日本はこの提案が通るなら山田案を引込めて良いと見た。W.G. 1で Davidson 提案に賛成したのは USSR と日本だけであつた。アメリカは割れ、イギリス、フランス、スウェーデン 賛成、2名が反対、残り白票であつた。

結局 声明にはこの内容は入れられず、むしろ核防支持のコーパスはもり込まれた。

Garcia Report — (口際協力は我々が考えている程、生かすものではない ということと互恵的なデータをもとにその実体を明らかにした。)

- 内容:
1. 現在行なわれている aid は圧倒的な部分が bi-lateral である。
  2. Internal Co-oper. は aid といふが、結局 aid であり、aid 11% 方が儲かっている。
  3. LA にはある USA の「進歩のための同盟」を例として bi-lateral の実情を痛烈に批判した。それが USA の善悪、悪意によるものでなく米国の企業、自由を妨げ、もうは排除するから社会の本質に根ざしたものであることを指摘した。

提案: 1. "発展" といふ問題の具体的検討

2. bi-lateral R<sub>W</sub> ~~or~~ regional Co-oper. の program の具体的な検討

3. 口際手段による援助を有効ならぬ ため の口際的かつ 70- ン。 か を 拡大 する

我々のこの問題について懸念をうけたから、3-強のため援助が出来なかった。今後考慮の必要あり

4<sup>o</sup> Comment on Vietnam (山田)

A. Garcia Report についての comment

Garcia Report は後進国からは絶賛された。しかし基調報告で"支持されたにも拘らず", W.G. 報告でも, 声明でも入れられず, これは従前通り キレイ事になった。

B. Vietnam (W.G.-7)

- USA は W.G. 内では 北爆無条件停止は呑みこみであった。
- しかし 総会声明の draft の中には入らなかった, それを認めようとする努力は W.G. に入っていない USA の人達の妨害によって 流産 になった。

総会声明そのものが

(経統委で声明するのなら仕方がないが, 海場一致で"い"でやられたら困る というのが本音?)

その結果 経統委声明 となった。

- もともと W.G.-7 が出来たのは オランダの強い要請による。(Talhoek-Smith)

Smith 提案: South-East Asia から米軍が撤退する事が本質的である。

しかし他からの意見として, 世論を入れて, 「北爆即時停止」を第一歩とせよ が出る。

- 米国の道徳的批難 (USSR)

—— これは一致しなかった。

- 日連憲章, Geneva 協定違反

—— これは入らなかった。

○ アフリカ側の論理

— 赤の脅威とか口運の介入

朝鮮戦争の全戦による口運不信感という  
ことで潰れる。

W.G. では、北からの侵襲、アメリカの侵襲という点での  
意見の相違はあったが

1°) 北爆の無条件即時停止

2°) 休戦と撤退(外国軍)を組織するための  
交渉を即時始める

3°) 東南アジアに安定した平和を再び確立するため  
の国際会議を開く

の点で一致した。

大統領声明では平和的解決でボヤカされた。

4°) 世界平和への脅威のみでなく、現実にベトナム  
民衆が長く苦しんでいる。

C. 近東問題

アラブ連合 - USSR ) が肩をもち感情的プロもあり、  
イスラエル - USA )  
何とも午の施しよろなし。

D. アフリカ

ナイジェリアの叛乱: 多数の(200万)避難民、3万の死者

カメルーン、南ア: 大口避難は W.G. 報告には

あるが声明にはハッキリは書いてない  
具体的午段についてはあとでアフリカ  
から言及された。

3° 小川報告

- 印象：
- ・口運ゴツゴツ的
  - ・ Pug. は 曲り角に来ている  
— Wien 宣言当時の雰囲気なし
  - ・ 軍縮問題, 南北問題で人の分極が現われている。

軍縮の new idea

世界大戦への

- 1° local war (北+4. 近東) の危険性の指摘,
- 2° B.C. 兵器

- ・ Sweden は SIPRI を中心に国家援助のもと系統的にやっている。これから総合報告あり。

- ・ Geneva 協定は取付けだけだ" 精神は理解されても実施に難点がある。

3°) 兵器の進歩による問題

原潜論 (小川)

— Economical, 秘トク性から抑止戦術上有効と考えられているが、核抑止の安定性を崩すものである。

生物、化学者たちは抑止戦術上からの研究がなく薬の名前とか非人道的使用からのものしかなかったように思われる。

最後に.

- 1) 総会声明と全統委声明の区別として、総会声明は「原則的向題」のみに限るという方針が全統委から出た。その結果 総会声明最終草案には A+B が含まれていなかった。

これが「前記のごとく 総会声明が出せなかった理由」である。

- 2) 全統委の改組

President : Cockroft

Chairman : Powell

現在のまゝ

USA	3	
USSR	3	
UK	2	
WE	2	(Italy, France)
EE	2	(Poland, Czecho.)
Asia	1	(India)

直ちに増やすもの

A	1	(Tanzania)
LA	1	(Brazil)

財政状態により増やすもの

WE	2	(Sweden, Holland)
EE	1	(Yugo)
Asia	1	(Japan)
A	1	( ? )

註. 中口は参加の意欲があるものは「直ちに増やす」。

Secretary General は 1 年限り Rotblat.

- 3) 財政 — 分担金.

USA	\$ 2 万
USSR	\$ 1.1 万
UK	\$ 0.6
WE	\$ 0.6
EE	\$ 0.6
India	\$ 0.1

Ⅲ. 報告に関する討論

湯川： 日本でも東南アジア援助で儲けているが、一方米国の巨大資本の中に吸収されていっている。

山田： Australia の Conf. は米ソ2大国が出席しない会であったが、東南アジアから来た連中は今回の Africa, Latin America から来た連中に対して姿勢が弱かった。

湯川： Pug. Conf. には2大国が出席していることに意味があった。今は異なる。

山田： 核拡散防止ではなれ合った。全てがなれ合っていないが。

小川： 核拡散防止問題ではとくに大国主義がでた。Vietnam を見てもわかるように無責任だ。USSR は核防条約は方便だと説明した。

湯川： 抑止戦術論はダメであるということが出れば有効である。

豊田： 核拡散は2大国だけでやたらどうか、抑止戦術論は破綻しているといったが USA, USSR はまだわかっているらしい。

湯川： 抑止戦術論は発散項数である。small correction term はあっても。

小川： France は going my way だ。

湯川： 西独では Göttingen 宣言を改めてやり話がある。非常に悪い状況なのではないか。日本もよいとはいえないが。

豊田： USSR は「Brazil などはどうでもよい」といい「Brazil が入る入りぬは世界平和に dangerous とは思わない」といつている。西独との加盟すればよいと考えているようだ。

山田： 日本が主張したような立場での核拡散防止についての批判は他の国にはなかったようである。

豊田： 「何故 科学の植民地にならねばならぬか」という Lopes の発言はハッキリしていた。

湯川： 下田発言で 日本人を4つに分けて、majority は声なき声で

これは核兵器に反対しているといっているがこれは正しい発言である。

小川：今の様な時期に、科学者の意見を point out しておく必要がある。

湯川：そう思う。

豊田： Pug. Conf. の年齢構成が問題になった。UK では平均 57才であったが、若い人を入れなければならぬ。Italy は summer school を開いた。若い科学者が参加できるようにするものに入れなければならぬ。Africa, Latin America では若い人しかいない。

湯川：物理でも現在では若い人があふんじている。BC兵器についてどう考えているか。JSC でもだいぶ変わってきているのではないかと。

山田：生化学では物理ぐらいいるのではないかと。若手の会もあり、

坂田：農学も。

湯川：日米委員会から金が出ているが bilateral はしんどい問題である。bilateral が止まっても政府の統制がこれにかわってくる。

坂田：Holland は国内的に組織がちゃんとしている。

豊田：Pug. Conf. における小国の役割を Holland が持っている。America の influential men は結局国策に忠実な be influenced といえる。母体は people でなければならぬ。government の consultant や adviser であってはならぬ。

湯川：状況は日本でも同じで急速に変わっている。科学者の分化が起りつつある。America に向つてある。期待される人(体利便りから)あつてはそれ以上になつていないのではないかと。

また journalism は自分の線(ほとんど政府の線)と政府が下部と工務部とでつながっている。

山田 : Holland の Pug. Conf. 友の会の北爆の無条件停止に  
ついでに投票は非常にはつかりしている。

小川 : Pug. Conf. は曲り角にまわっている。科学者の集りの特徴が  
なければならぬ。

湯川 : 情勢の変化は科学者の友の会の必要性を感じさせる。  
JSC だけでは困る。JSC の位置づけが問題。変わって  
いる。日本科学者会議との関係はどうなるだろう。

山田 : Pug. Conf. の最初の世界科連が縁の下の力持ちの  
役割をした。

小川 : Pug. Conf. と日本科学者会議とは

沢田 : Pug. と京都会議の相違を意識しておくことが大切  
では。

湯川 : 賛成

山田 : Holland と同様、Pug. Conf. の Vietnam に対する取  
組みにシジリしているから投票をやった。

(朝永到着 p.m. 10:15)

山田 : Field は物理屋として抑止論は stable ではないことは  
認められているが control が強く範囲に抑止力があると思っ  
ている。

豊田 : 無限の悪循環ではなくて ABM にみられるような break  
down なのだ。マクドナルドは Vietnam 問題でなくて  
抑止論の break down だと思ふ。comfortable  
superiority が抑止の balance of deterrence に  
対して優勢になったことを意味する。

湯川 : 米ソ両国とも uncomfortable な北爆を作ることが  
おそろしい。

朝永 : Offence と defence の区別はあつた。

核拡散の難い2件問題は、米ソの合意、  
としておとから追いつくこと、たして共通の利害をも  
後の国に対処するようになる。例は中国にまつては、  
湯川：絶対に走らなければぬ。

p.m. 10:50